

Slovenia Monthly November 2018

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2018年12月19日



～11月の主なポイント～

- 政治：** 地方選挙にて、全212の地方自治体にて、122人の無所属首長が選出
- 経済：** スロベニア中央銀行総裁の候補発表：ヴァスレ・マクロ経済開発研究所所長代行
- 外政：** スロベニア、国際移住グローバル・コンパクト(GCM)の採択を支持することを決定
パホル大統領、フランス大統領主催第一次世界大戦終戦100周年記念式典に出席
- 軍事：** 初の女性スロベニア軍参謀長が誕生：アレンカ・エルメンツ氏
- 治安：** トリエステにおけるネオ・ファシストの集会の開催、シャレツ首相が批判を表明
- 科学：** スロベニア初の衛星打ち上げに予算確保

政治

2018年地方選挙

11月18日の地方選挙では、スロベニア国内全ての212の地方自治体において、合計688名が市長として、また、市議会議員全2,300議席に対して、約10倍の22,313名が立候補した。市長選挙に臨む女性は約100名にとどまり、全体の7分の1となった一方で、議会議員選挙では、男女の割当制(選挙候補者リスト提出時において、いずれの性別も40%以上)が導入されていることから、女性候補は全体の45%(約10,200名)となった。

〈地方議会選挙結果〉

18日に行われた第一次投票での投票率は50.67%で、前回2014年選挙の45.2%より5ポイント以上増加。地方議会議員選での全国総議席数に対する各党の議席獲得の割合は以下のとおり。女性議員は1,110名(全体の33.3%)であった。

(1) 民主党(国民議会野党, 中道右派, SDS):	19.5%
(2) 社会民主党(国民議会与党, 中道左派, SD):	12.2%
(3) 人民党(非議会政党, 中道右派, SLS):	7.9%
(4) 新スロベニア・イニシアティブ(国民議会野党, 中道右派, NSi):	6.4%
(5) 年金者党(国民議会与党, 中道左派, DeSUS):	4.8%
(6) 現代中央党(国民議会与党, 中道左派, SMC):	3.3%
(7) マリヤン・シャレツ・リスト(国民議会与党, 中道左派, LMS):	1.9%
(8) 左派(国民議会野党, 左派, The Left):	1.5%
(9) 国民党(国民議会野党, 右派, SNS):	0.5%
(10) アレンカ・ブラトゥシェク同盟(国民議会与党, 中道左派, SAB):	0.3%
(11) 「Good State」党(非議会政党, 中道左派):	0.3%
(12) 緑の党(非議会政党, 中道右派, Greens):	0.2%
(13) 他の政党:	7.0%
(14) 無所属:	34.2%

<首長選挙結果>

11月18日、全212の地方自治体にて第一回投票が行われ、その後、12月2日、第一回投票で得票率の過半数を得た候補者がいなかった56の自治体において首長選挙の決選投票が実施された。主要な都市における結果は以下のとおり。

●リュブリャナ市

首都リュブリャナ市では、現職のヤンコヴィッチ(Zoran Janković)市長が61.4%の得票率を獲得し、次点の民主党(中道右派, SDS)のロガル候補(Anže Logar, 28.8%)を引き離し、4期目となる再選を果たした。

●マリボル市

スロベニア第2の都市、マリボル市では、中国資本を後ろ盾にマリボル市の経済発展を目指すも結果を出せずにいた現職のフィシュトラヴェツ市長(Andrej Fištravec, 無所属)が、得票率わずか9%で3位となった。その後、企業家のアルセノヴィッチ候補(SMC, Mr Saša Arsenovič)及びカングレル元マリボル市長(人民党, 中道右派, Mr Franc Kangler)による決選投票が行われ、アルセノヴィッチ氏が58%獲得して当選。

●コペル市

コペル港を有する西部海岸都市のコペル市では、第5期目を目指す現職のポポヴィッチ市長(Boris Popovič, 無所属)が第一回投票にて得票率44.55%を獲得するも、過半数を得られなかったため、同氏及び2014年にも市長選挙に挑み支持を伸ばし続ける第2位のブルジャン候補(Aleš Bržan, 得票率30.48%)との決選投票となった。結果、ブルジャン候補が、わずか7票差で勝利。

●その他の主要都市

シャレツ首相が市長を務めていたカムニク市では、同首相率いるマリヤン・シャレツ・リスト(LMS)のジャヴビ候補(Mr Igor Žavbi)が決選投票に進むも、得票率約39%しか得られず、結果として、LMSは今次選挙において首長を一人も輩出できなかった。カムニク市で勝利したのは、約61%を獲得した新スロベニア・イニシアティブ(NSi)のスラパル候補(Mr Matej Slapar)。

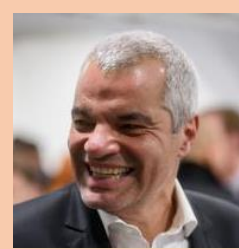
その他、コチェウイエ市、ロガテツ市、ムルスカ・ソボタ市、クルシュコ市、ブレッド市等で現職市長が再選を果たしている。なお、スロベン・グラデツ市では、チャス現職市長(Mr Andrej Čas, 無所属)が48%で当選ならず、新たにティレン・クルグレル氏(Mr Tilen Klugler, 無所属, 地元の文化スポーツ施設運営会社社長)が市長となった。イドリヤ市ではヴェンツェリ氏(Mr Tomaž Vencelj, 無所属, 前市議会議員)、レンダバ市ではハンガリー系少数民族のマジャル氏(Mr Janez Magyar, SDS/NSi候補, 企業家)が新たな市長として選出された。



ヤンコヴィッチ・リュブリャナ市長
(photo: Uroš Hočevar)



ブルジャン・コペル新市長
(photo: <http://listaalesabrzana.si>)



アルセノヴィッチ・マリボル新市長
(photo: siol.net.)

<論調>

スロベニア通信:

●政党別にみれば、本年6月に実施された国民議会選挙同様、政党支持基盤の強固な野党SDSや与党SD等の伝統の長い政党が勝利した結果となった。

●LMSは、本年はじめて国政に参加した新政党であり全国的なネットワーク不足のため今次選挙は敗北したと見られるが、それにしても、同様に新政党として2014年に国政選挙で勝利したSMCの同年の地方選挙よりも悪い結果となった。シャレツ首相は「LMSとしては、達成し得る成果で満足する」と結果の大きさを重視しない旨の発言をした上で、「前政権は地方自治の仕組みを理解していなかった。自分が率いる新政権は、地方自治体と協力して取り組んでゆく」旨の意向を表明した。

● 今次選挙で選出された自治体首長の内、無所属の首長は2014年選挙と比較して7人増加して122人となった。伝統的に地方選挙で優勢である国政野党SDS(中道右派)、国政与党SD(中道左派)及び非議会政党SLS(中道右派)は首長数を減少させており、より多くの自治体において地元情勢に通じ、政策遂行能力の高い独立系または半独立系(政党による推薦あり)の無所属候補が市民の支持を集めた結果となった。

● 一方、地域別に見れば、連立与党ジュニアパートナーのSDは、特に「都市ステータス」を有する人口の多い自治体(city municipality) 11都市の内、4都市にて勝利を収めたことが特筆される。人口の約3分の1を占める都市部で、中道左派のSDが勢力を伸ばしていると言える。

ドゥネウニク紙(20日付):

● 各政党は、今次選挙結果を都合の良いように解釈しており、各政党代表の発言は実態を適切に反映しておらず、政党のアピールに過ぎない。例えば、中道右派SDSは地方議会選挙において最大の得票率を得たものの、大都市ではなく地方部においてのみ勝利している。右派SLSに至っては、最多の首長を輩出したものの、彼らは小規模な自治体における首長であり、全国的には政治経済的な影響をほとんど及ぼさない。国政では中道左派による連立与党が実権を握っており、首都リュブリャナでは、独立系のヤンコヴィッチ市長の団体が圧倒的勝利を収めたのが現状である。

湾岸コペル地域の地方紙「プリモルスカ・ノヴィツェ」

● コペル市では、4期努めたポポヴィッチ現職市長を相手に、ブルジャン氏は歴史的な勝利を収めた。16年間市長の座にいる間に独裁的な傾向が強くなったポポヴィッチ市長に対する市民の反発の表れである。他方、コペル市議会においては、ポポヴィッチ派のグループが依然として第一党(ブルジャン氏のグループは第二党)であり、今後ブルジャン氏のリーダーシップが問われることとなる。

〈内政一般〉

● 財務相、2019年地方交付金にかかる合意署名【7日】

ベルトンツェリ財務大臣は、地方自治体の代表等と、2019年の地方交付金の基準額にかかる基本合意書に署名した。2019年の公布基準額は、住民一人あたり573.5ユーロであり、前年比20ユーロ増加となった。なお、本交付金は、個人所得税を主な財源としており、法律に基づいて中央政府より地方政府に委託されている医療保険、教育及び社会保障にかかる公共サービスの提供に使用される。

● リュブリャナ市にて第一次世界大戦終戦100周年式典開催【9日】

リュブリャナ市にて第一次世界大戦終戦100周年式典が執り行われ、パホル大統領は、同式典スピーチにて「恒久的平和のためには人々や国々の間の繋がりが重要である。スロベニアにおいて、第一次世界大戦は、概して個人的な記憶として収められてきたが、同大戦の終焉により、スロベニアは独立国家の形成に向けた第一歩を踏み出した。終戦100周年を迎えたことを機に、第一次世界大戦の時代を我が国の独立の歴史における一里塚として位置づけるに値する」と述べた。同式典は、パホル大統領のほか、ジダン国民議会議長、コウシュツァ国民評議会議長、閣僚

や司法機関、警察、軍、宗教団体等の代表、外交団が出席した。



(photo: sta/Daniel Novakovič)

● バンデリ開発・戦略事業・結束担当大臣の辞任

12日、シャレツ首相は、バンデリ開発・戦略事業・結束担当大臣が、同大臣が元市長を務めたコメン(Komen)市の市長選挙キャンペーンにおいて、不適切な発言をしたとして、同大臣に対して辞任を要求した。バンデリ大臣は、コメン市で行ったスピーチにて、市民に対して、同大臣が所属する連立与党政党「アレнка・ブラトゥシェク同盟(SAB, 中道左派)所属の市長候補を選ばない場合は、コメン市はインフラ省及

び開発・戦略事業・結束担当省のサポートを得られない」旨の脅迫とも捉えられる発言をしたとされる。

13日、プラトゥシェクSAB党首は、同党幹部会を開催した後、同氏のこれまでの実績を讃えつつも、同氏は今般の問題に対し責任を取る用意があるとして、同氏の辞任を公表した。

なお、非公式情報によれば、シャレツ首相は、バンデリ大臣の辞任要求に関し、同大臣は、不適切発言があったほか、指示していたEU予算に関する政策改善策の提出を期限内に提出できない等、閣僚としての技量が不足していることも理由として挙げていた。

●シャレツ首相、2019年補正予算策定に関し、連立与党の協力要請【16日】

シャレツ首相は、ポルトロージュにおいて開催されたビジネス会合に出席した際、2019年度予算案が承認されない場合は、自身の内閣の信任投票を議会にかける用意があるとの意向を示した。新政権による2019年度予算の補正案は、2019年の初めに最終決定される見込みだが、シャレツ首相は、地方自治体への交付金及び社会保障費の増額を約束しており、公務員組合との交渉における賃金引上げの歳出に与える影響等を鑑みると、今後、財政の均衡を保つためには、忍耐と知恵が必要だと述べ、連立与党に対して協力を呼びかけた。

●憲法裁判所裁判官にスタッブス氏が加わる【27日】

国民議会において、12月19日に任期満了となる憲法裁判所裁判官の後任選出にかかる投票が行われ、賛成50票を得てカティア・シュグマン・スタッブス氏(Katja Šugman Stubbs)の任命が確定した。スタッブス氏は、1966年生まれ、刑事訴訟の専門家。法学の博士号を取得し、2011年よりリュブリャナ大学法学部教授。過去には、ケンブリッジ大学等、海外の大学における客員講師、欧州評議会の国連拷問等防止委員会のスロベニア代表なども歴任。今般、連立与党及び左派によって憲法裁判所裁判官として推薦されたが、野党側は、同氏が、パトリア汚職裁判において、ヤンシャ元首相による有罪判決を支持する旨の発言をしたとして批判している。なお、当国の憲法裁判所は9名の裁判官で構成されており、裁判官の任期は9年。

【外政】

〈クロアチアとの国境線確定問題〉

●スロベニアの欧州司法裁判所に対する訴状内容が明らかに【5日】

スロベニア・クロアチア間の国境線確定を巡り、クロアチアが国際裁判所による仲裁裁定の履行を拒否し

ていることを受け、スロベニア政府が、クロアチア政府を欧州司法裁判所に提訴した件につき、EU官報にスロベニア側の訴状内容のサマリーが掲載された。それによれば、スロベニア政府は、欧州司法裁判所に対し、クロアチアがEU条約第2条及び第4条、EU共通漁業政策にかかる規則、シェンゲン規則、領海の設定にかかる枠組み構築に関するEU指令に違反していると指摘し、クロアチアに対し、これらの違反を遅滞なく停止し、右により発生した経費を支払うことを求める内容の判断を下すことを要請している。

●クロアチア国防大臣、スロベニアを訪問【6日】

クリスティチェビッチ・クロアチア国防大臣がスロベニアを訪問し、エリヤヴェツ国防大臣との間で会談を行った。両大臣は、国防分野における良好な協力関係を確認し、クリスティチェビッチ国防相は、本分野での協力は、両国にとり戦略的に重要なものである旨強調した。これに対し、エリヤヴェツ国防相は、両国は、移民の大量流入、自然災害及びテロリズム等の、同様な安全保障分野での課題に直面していると述べた。また、同国防相は、国境線確定問題に関し、「両国は数多くの分野において良好な協力関係を築いてきており、遅かれ早かれ法的に解決される問題によって我々に負担を課すべきではない」と述べた。

●ポチヴァルシェク経済相、中国を訪問【6日】

中国国際輸入博覧会に出席のため中国を訪問したポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、在上海スロベニア総領事館を訪問した際に、「スロベニアは欧州の中心に位置し、人口5億人の市場にアクセスすることが可能である」と述べた。同大臣は、スロベニアにとり欧州域外での最大の貿易パートナーである中国との良好な関係を賞賛し、「16+1」の枠組みの下で、両国は貿易高を12億ユーロ超まで押し上げることが出来たと述べた。

鐘山(Zhong Shan)中国商務部長等と会談した同大臣は、会談後「過去数年間で、幾つかの有名な中国の投資家をスロベニアに誘致することが出来たことは、我々がビジネス環境を促進してきている証拠である。スロベニアへの投資は、インフラ及び観光分野において中国企業にとっても重要な機会となることを中国側に説明した」と述べた。

カンタルティ同省副大臣は5日にHisense社により買収されたGorenje社のプレミアム製品のPRイベントに参加した。

●ツェラル外相、オーストリアを訪問【7日】

ツェラル外相は、オーストリアを訪問し、クナイスル外相との間で二国間関係及び移民問題を含む国際

問題につき協議した。また、両外相は、シリアでのITFのプロジェクトにおける両国の協力、南東欧情勢等についても意見交換を行った。ツェラル外相は、オーストリアにおけるスロベニア系少数民族に対する予算増額及びスロベニア系メディアの体系的及び法的な保護を要請した。また、ツェラル外相は、ソボトカ国会議長とも会談し、西バルカン諸国のEU加盟及び難民問題への対応につき意見交換を行った。

●シャレット首相、スペインを訪問【8日】

シャレット首相はスペインを訪問し、サンチェス・スペイン首相との間で首脳会談を行った。両首相は、EUの機能強化の必要性で合意すると共に、シェンゲン・レジームの完全な機能復活も含め、移民政策は加盟国間でよく調整・統一された持続可能なものでなければならないとの考えで一致した。また両首相は、二国間の貿易高は増加傾向にあり、経済分野での協力は更に発展の余地があるとの認識で一致した。

●ALDE、「マリヤン・シャレット・リスト」(LMS)の加盟を承認【9日】

マドリッドで開催された欧州自由民主同盟(ALDE)総会において、「マリヤン・シャレット・リスト」(LMS)がALDEへの加盟を承認された。同会合に出席したシャレット首相は、LMSの加盟承認を受け、「自分が欧州理事会の中で8名いるリベラルな首相の1人となったことを誇りに思う」と述べた。また、同首相は、スピーチの中で、リベラル政党は、ユーロ懐疑主義(euroscepticism)に対抗する強力な力となることを確信していると述べ、スロベニアは、オープン且つリベラルで、強く統合されたEUを支持する国であると強調した。同総会には、同じくALDEメンバーである現代中央党(SMC)党首のツェラル外相及び準メンバーであるアレンカ・ブラトウシエク同盟(SAB)のロマン・ヤキッチ氏が出席した。

●国際移住グローバル・コンパクトを巡る動き

5日、シャレット首相は、民主党(SDS)を含め、複数の政党が、他の幾つかの国の例に倣い、国連移住グローバルコンパクト(GCM)に参加しないことを求めていることを受け、それは過剰反応であり、GCMはあくまでも法的拘束力を持たない文書であるとの立場を示した。一方で、スロベニア政府は、本件に対する政府の立場については本年5月に前政権が採択したことから、外務省に対し、GCMの内容につき再評価するよう指示した旨述べた。

15日、スロベニア政府は、閣議において、GCMの採択を支持することを決定。本件につきツェラル外相は、GCMは政治合意であり、スロベニアの法制度の

改正は必要ではなく、各国は主権を完全に維持することが可能であるとの考えを示した。また、同外相は、GCMは新たなカテゴリーの移民を作るものとの右派政党の主張を否定し、一般国民に対し、人々を不安に陥れるような試みに騙されないよう注意を促した。また、16日、国民議会外交政策委員会も、11対5で、GCMの採択を拒否するという右派政党の提案を否決した。

22日、スロベニアによるGCMへの支持に反対するSDSが、国民投票の実施を呼びかけていることに関し、国民議会法務部は、日刊紙Dnevnikに対し、GCMは国民議会により採択されたものではないため、国民投票の対象とはならないとの見解を示した。国民議会は、本件提案につき審議を行うこととなるが、「左派」もGCMへの支持を表明していることから、採択はされない見通しである。

●エリヤヴェツ国防相:「EU軍創設支持も、加盟国に対する軍事力倍増の要求には反対」【20日】

エリヤヴェツ国防相は、スロベニア政府はEU軍の創設を支持するものの、EU及びNATO加盟国に対し、軍事力の倍増を求めるような要求には反対するとの考えを示した。また、同国防相は、EUの共通安全保障・国防政策は、EU軍創設に向け進んでいるが、加盟国間において政治的コンセンサスを確保するのは容易ではないと述べた。更に、同国防相は、加盟国は、EUの海上軍事作戦「Sophia」は継続されるべきとの意見で一致したが、地中海で救助された移民がどこに上陸すべきかについては解決策を見いだせていないと述べた。

●パホル大統領、フランス大統領主催第一次世界大戦終戦100周年記念式典に出席【11日】

パホル大統領は、パリにおいて開催されたマクロン・フランス大統領主催の第一次世界大戦終戦100周年記念式典に出席した。大統領府によれば、パホル大統領は、同出席に際し、「平和という世界共通の基本的価値観の推進に尽力したい」旨の意思を表明した。また、同大統領は、フランス主催のパリ平和フォーラムへも出席し、同フォーラムの一環として各国に対する平和図書館への寄贈の呼びかけを受け、2014年にフランスにおいて外国人作家の部門で最優秀賞を受賞した、スロベニアの作家ドラゴ・ヤンチャル氏(Mr Drago Jancar)の「I Saw Her That Night」を寄贈した。

●レーベン環境相、国連世界地理空間情報会議出席【20日】

レーベン環境・空間計画相は、中国のドゥーチン(Douqin)で開催された国連世界地理空間情報会議(UN World Geospatial Information Congress)に出席し、効率的な地理空間情報システムの開発に向け全ての国々に平等な機会を与える努力を支持した。また、同相は、Lu Hao中国自然資源部長と会談し、両国の関係は自然資源の保護・管理における協力を通じて強化することが可能であるとの認識で一致した。

●スロベニア、EU議長国の準備開始【22日】

スロベニア政府は、2021年後半のEU議長国の準備を行うプロジェクトを開始し、マリー(Igor Mally)首相府副大臣を責任者に任命した。本件プロジェクトは、政府の全ての機関が関与することとなり、予算案は来年年初に政府及び国民議会に提出される予定となっている。議長国の期間中、スロベニアは約30の閣僚級会合、約2000の様々な会合の議長を務めることとなり、約15回の閣僚級会合がスロベニアで開催されることとなる。



マリー首相府副大臣 (photo:首相府)

●ポチヴァルシェク経済相、ドイツ訪問【22～23日】

ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣はドイツを訪問し、アルトマイヤー・独経済エネルギー大臣との間で会談を行った。同会談の中で、アルトマイヤー大臣は、高い付加価値を維持するために、ドイツの自動車メーカーが使用する自動車部品はEU内で生産されるべきとの考えを強調した。ドイツとの2017年の貿易高は、100億9600万ユーロ、対前年比で11.8%増となり、スロベニアの輸出入の約2割を占めている。また、アルトマイヤー大臣は、来年のブレッド戦略フォーラムへの参加招請を受け入れた。

23日、ポチヴァルシェク大臣は、ハノーヴァーにおいて、領事館の開館式典に出席した。「スロベニアにとり最大の貿易パートナーであるドイツとの関係強化は、経済外交の主要課題である」との考えを強調した。



(photo: www.slovemiatimes.com)

〈BREXIT合意に対する評価〉

●ツェラル外相:「実現可能で最良のコンセンサス」

15日、ツェラル外相は、英国及びEUの交渉官が策定したBrexit合意文書の詳細を分析するには多少時間がかかるものの、人々の利益と権利が尊重され、企業の活動が悪影響を受けないことが重要であるとの考えを示した。また、イヴァンツ・商工会議所首席エコノミストは、「欧州委は、合意が成立しない場合の企業に対するガイドラインを発表しているが、仮に合意が成立せず、英国とEU主要国との物資や資金のフローが麻痺した場合には、スロベニアも間接的な影響を受けることとなろう」と述べた。

19日、ツェラル外相は、「今回の合意案は、Brexitの方法に関する実現可能で最良なコンセンサスである」として、メイ英首相には、困難な議会対策も含め、英国が同合意案を受け入れることが出来るように英国内の立場を纏めることが出来ることと確信していると述べた。

●シャレツ首相:「BREXIT合意は現状に鑑みベスト」

25日、シャレツ首相は、英国のEU離脱に関する合意が、臨時欧州首脳会合において支持されたことを受け、「我々の誰もがBrexitを歓迎しておらず、維持出来るものを維持しようとしているのみである。我々は、パラシュートを地上との中間点で開くことが出来たが、それが着陸のインパクトを軽減することを期待している」と述べた。また、同首相は、今回の合意については、英国国内で、より多くの譲歩をEU側より引き出すべきであったとの批判もあるが、現状に鑑み、ベストな選択肢であったと評価しつつも、英国政府は、英国議会での審議という非常に困難な課題に挑まなければならないと述べた。

●スロベニア外務省、ロシア・ウクライナ情勢の緊迫化に懸念表明【26日】

スロベニア外務省は、ツイッター上で、アゾフ海と黒海を繋ぐ水域でロシアが3隻のウクライナ海軍の艦船を拿捕したことを受けたロシア・ウクライナ情勢の緊迫化に懸念を表明した。また、同省は、ウクライナの主権及び領土一体性に対する支持を確認すると共に、速やかな情勢の沈静化を呼びかけた。

●ツェラル外相、アルバニアを公式訪問【27日】

ツェラル外相は、アルバニアを公式訪問した。同外相は、ブシャティ外相との会談において、アルバニアによるEU加盟に向けた改革努力を賞賛すると共に、二国間の政治レベルでの良好な協力関係を評価した。両外相は、二国間の経済協力強化に向けたビジネス会議に出席し、経済分野での協力の重要性を確認すると共に、貿易・投資増加に向け協力を強化していくことで合意した。また、同外相は、メタ大統領及びラマ首相とも会談し、アルバニアのEU加盟及び西バルカン情勢等につき意見交換を行った。

●ツェラル外相、ローマを訪問【28日】

ローマを訪問したツェラル外相は、法王庁高官及びミラネージ・イタリア外相と会談した。同外相は、法王庁においてギャラガー外務長官及びパロリン国務長官と会談し、持続可能な開発及び貧困撲滅につき意見交換を行うと共に、フランシスコ法王の一般謁見に出席した。ツェラル外相は、ミラネージ外相とのワーキングディナーにおいて、イタリアに居住するスロベニア系少数民族の状況改善を要請した。また、両外相は、移民問題の解決のために、地中海に面する国々が、北アフリカ及び中東諸国との関与を強化していくアイデアにつき意見交換を行った。

●シャレツ首相、「Friends of Cohesion」首脳会合出席【29日】

ブラチスラバにて、ペレグリニ・スロバキア首相の主催で開催された「Friends of Cohesion」首脳会合に出席したシャレツ首相は、次期2021年～2027年期のEU予算案の早期合意を促すと共に、結束基金の急激な減額に反対するとの考えを示した。欧州委員会は、次期の結束基金予算として3310億ユーロを提示しており、前年同期から10%減となっている。同会合においてシャレツ首相は、環境問題や気候変動等の課題に対処し、地方の発展を促すことが重要であると強調し、地方の役割がEUのプライオリティから外れていることに懸念を表明した。同会合には、EU15ヶ国の高官の他、シェフチョビッチ欧州委員会副委員長及びエッティンガー欧州委員（予算担当）等が出席した。



シャレツ首相とペレグリニ・スロバキア首相
(photo: :sta/Bor Slana)

経済

●世銀ビジネス環境ランキングでスロベニアは40位【2日】

世界銀行は、ビジネス環境ランキングを発表し、調査対象の190か国中、スロベニアは前年から3つ順位を落として40位となった。EU加盟国の中では17位を記録。スロベニアの評価が高かった項目は、「貿易環境」(1位)、「電力供給」(23位)等で、「新規参入」では8つ順位を上げて38位となったものの、国別報告書では、企業設立の際にその企業の最終所有者に関する書類作成が追加されたことにより、新規参入がより複雑になったことが指摘された。他方、「資金調達」(112位)、「契約履行」(110位)に課題が残り、また、「建設許可取得」では20位順位を落とし120位となった。なお、世界第1位はニュージーランド、2位がシンガポール、デンマーク、香港、韓国と続き、日本は39位となった。

●スロベニア中央銀行総裁の任命候補発表

5日、大統領府は、次期中央銀行総裁選挙に関し、以下の5名が立候補した旨発表した。

- Dr Bostjan Vasle (マクロ経済分析開発研究所(IMAD)の所長代行)
- Prof. Igor Maste (リュブリャナ大学経済学部教授、金融学、国際経済学)
- Prof. Jože Damijan (リュブリャナ大学経済学部教授、国際経済学、ビジネス環境、貿易と技術革新)
- Ms Eva Lorenčič (欧州中央銀行分析官)
- Mr Tomaž Toplak (政府系基金元会長)

30日、パホル大統領は、中銀総裁の選出に関する各政党との協議を経て、マクロ経済研究所(IMAD)元所長のポスティヤン・ヴァスレ氏(Dr Bostjan Vasle)を総裁候補として指名した。12月中旬、国民議会にて、同氏の中銀総裁任命にかかる投票が行われる予定。



ボスティアン・ヴァスレ氏 (photo: sta/Bor Slana)

●2017年国際協力報告書を承認【29日】

政府は、2017年の国際協力に関する報告書を承認した。同報告書によれば、2017年、スロベニアはGDPの0.16%にあたる6,723万ユーロを国際開発協力をに拠出し、その内、3分の2をEUによる開発協力及び人道支援のためのEU予算等に拠出。残り3分の1は二国間協力をに拠出され、内容としては奨学金、開発人道支援、技術協力、NGO補助、スロベニアにおける難民及び移民の宿泊費等に充てられた。なお、2017年の国際援助額は、前年比9%減少。スロベニアは、2002年以降に加盟したEU加盟国として、2030年までに同援助額をGDP比0.33%に引き上げることが目標となっている。

〈コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業〉

●ハンガリー首相による参画断念表明に対する反応

17日、オルバーン・ハンガリー首相は、ハンガリー通信 (MTI) に対し、コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業へのハンガリー政府の参画を断念し、既にトリエステ港と協力につき協議を開始していると述べた。

ブラトゥシェク・インフラ大臣は、「仮に我々がハンガリーと第2路線を建設することになれば、建設経費は数億ユーロも高額なものとなる。ハンガリー側は、スロベニアの海岸線の一部を獲得するために本件プロジェクトに関心を示していたのであり、それは実現不可能なものであった」と述べた。また、マリヤン・シャレツ・リスト (LMS) は、ハンガリーの撤退は予測していたものであり、スロベニアは独自に事業を進めることが可能であるとの考えを示した。

19日、ツェラル外相は、ハンガリーの本件事業からの撤退は、スロベニア側の幼稚な行動が原因であったとして、スロベニアは歴史的な機会を見逃し、将来の世代の利益を損なったと述べた。

20日、スロベニアを訪問したシーヤールト・ハンガリー外相は、ラジオ・スロベニアのインタビューに対

し、コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業へのハンガリー政府の参画の選択肢は引き続きオープンであるとの考えを示した。また、同外相は、「自分のよき友人であるツェラル外相は、インフラ大臣の発言が政府の最終決定ではない旨述べていた」と述べた。ラジオ・スロベニアは、「ツェラル外相は、スロベニア政府が本件事業への近隣国による参画の可能性を排除した訳ではないことについてシーヤールト外相を説得できたようだ」とコメントしている。

●ゴレニェ社、中国でプレミアム家電販売開始【5日】

中国のHisense傘下の家電大手ゴレニェ社は、中国市場におけるプレミアム家電の販売を開始し、中国国内の特定の販売店において購入が可能となった。同社は、本年末迄に、販売店の数を拡大させ、2019年の第1四半期までには殆どの販売店において、全ての商品の購入が可能となることを目指している。ポビナツツ同社CEOは、「中国市場は非常に競争が激しく、要求される水準も高度であるが、同市場への参入は、ゴレニェを成長させ世界市場でのプレゼンスを強化する非常によい機会になる」と述べた。



(photo: www.gorenjegrup.com)

●マリボル空港管理会社の要請、却下される【6日】

インフラ省は、中国資本のSHS Aviation社傘下のマリボル空港管理会社が要請していた2020年までの政府補助金320万ユーロの供与を、同社が補助金供与にかかる要件を満たさないとして却下した。報道によれば、同社は2ヶ月間に亘り、空港使用料の支払いを延滞しており、インフラ省に対し、20万ユーロの負債を負っている模様。STAに対し、マリボル空港管理会社は、マリボル空港の開発計画を変更する予定はなく、同空港から撤退することもない、リース料を支払っていないのは「客観的な状況」が理由であるとして、「同空港の開発継続に必要な政府の計画案採択に向けたタイムラインが明確でないことにより、全ての財政的負担が弊社に降りかかって来ている」と政府の対応を非難した。

●カラヴァンケ第2トンネル建設事業、トルコ企業の入札を排除【30日】

公共入札に関する国家再評価委員会は、カラヴァンケ第2トンネル建設事業にかかる入札において、最も安価な価格を提示したトルコの Cengiz Insaat Sanayi ve Ticaret 社を、本件事業から排除することを決定した。同社は、他社よりも入札価格が大幅に低かったことから、一部メディアはダンピングの疑いを指摘していたが、同委員会は、同社を本件事業から排除した理由を、同社が入札において全ての必要書類を提出しなかったこと、また、同社の幹部に犯罪歴があることを挙げている。

●クルシュコ原発、スロベニア国内で使用済み燃料貯蔵施設の建設決定【30日】

クルシュコ原子力発電所は、同発電所の使用済み燃料を、2043年に同原発が廃炉となるまで貯蔵するドライ・ストレージ施設をスロベニア国内に建設することを決定した。現在、同発電所では使用済み燃料を敷地内のプールに貯蔵しているが、ドライ・ストレージの方が安全性が高いため、今回建設が決定された。建設費の総額は約6000万ユーロであり、3分の2は同発電所から、3分の1は同原発の廃棄基金 (Decommissioning Fund) から賄われ、建設工事は2021年に開始予定となっている。

軍事・治安情勢

●トリエステにおけるネオ・ファシストの集会の開催、シャレット首相による事前の非難【2日】

トリエステ市において3日に実施された「Casa Pound」と呼ばれるネオ・ファシストの集会を前に、シャレット首相は「いかなる時代にも、ファシズムは悪を具現化したものである。支持されるものではない」としてツイッターで抗議した。同集会に関して、反ファシズム運動の記憶を残す活動をしている市民団体「Tigr Primorske」が、「同集会はプリモルスカ地域における抵抗運動への侮辱である」として抗議。これに対し、パウル大統領は、同様の極右集会に関しては、マッタレラ・イタリア大統領との前回の会談にて既に意見交換済みであり、「スロベニアは、国粹的な主張に反対の姿勢を持つとの立場を明確にしている」旨コメントした。

なお、ドゥネウニク紙によれば、同集会には、イタリア全土から2000人の活動家が集まる一方で、同トリエステ市では、約4,500人からなる反ファシズム集会も開催され、スロベニア人も参加した。

スロベニア長者番付

15日、「Manager」誌はスロベニア長者番付を発表しました。上位100人の資産合計額は57億ユーロで前年比10%増加しました。トップ5は、以下のとおりです。

- 1 Iza and Samo Login – 689 百万ユーロ
- 2 Sandi Češko – 334 百万ユーロ
- 3 Marko Pistotnik – 210 百万ユーロ
- 4 Joc Pečičnik – 194 百万ユーロ
- 5 Tatjana and Albin Doberšek – 183 百万ユーロ

トーキング・トムのキャラクターで知られる携帯端末用アプリのメーカー「Outfit 7」社創設者のログイン夫妻が資産6億8900万ユーロで5年連続第1位となりました。ログイン夫妻は、2016年に同社を10億米ドルで中国の「United Luck Group」に売却しましたが、フィナンツェ紙によれば、同夫妻は、その売却益をその後環境保護活動を行う NGO に寄付したとのことです。



(photo: Iza and Samo Login, by Tania Mendillo)

第2位は通販会社「Studio Moderna」社社長のチェシュコ氏で資産は3億3400万ユーロ、第3位はOutfit 社の元共同経営者であるピストウニク氏で資産は2億1000万ユーロでした。

その他、第4位は、カジノ等のマシン開発企業「Interblock」社社長のペチエチュニク氏、第5位は、ドイツでエンジニアリング企業「Dobersek Engineering」を創業したドベルシェク夫妻。同社は、鉱業から、水処理、発電、環境まで幅広いプラント設計を手掛ける会社です。



2017年にトップ100入りした最高位の新顔は、バナナや柑橘類のフルーツを輸入し、ブランド名「Derby」で知られる「Rastoder」社社長のラストダー氏(40位、36.2百万ユーロ)でした。



●初の女性スロベニア軍参謀長が誕生【27日】

政府は、アレンカ・エルメンツ陸軍少将(Major General Alenka Ermenc)をスロベニア軍参謀長に任命した。スロベニア国防省によれば、スロベニアを含むNATO加盟国における初めての女性の参謀長となる。エリヤヴェツ国防大臣の提案に基づくエルメンツ氏の参謀長任命は、軍最高指揮官であるパホル大統領によって承認された後、政府により任命された。

エルメンツ氏は、1963年生まれ、リュブリャナ大学社会科学部卒、キングス・カレッジ・ロンドンにて修士号取得。1991年、スロベニア軍の前身である地域防衛隊(Territorial Defence)の一員として独立戦争に参加した後、スロベニア軍に27年間従事。NATO主導のコソボ治安維持部隊(KFOR)で司令官の補佐を努めたほか、NATO及びEU危機管理訓練等に参加。2011年、准将に昇格し、2018年3月に参謀副長に任命された。



(photo: sta/Tamino Petelinšek)

27日、STAのインタビューにおいて、シャレツ首相は、本年10月にタチアナ・ボブナル氏(Tatjana Bobnar)が初の女性警察本部長代行に任命されたのに続き、今般、初の女性参謀長が任命されたことを受け、「女性がスロベニア軍及び警察を率いること誇らしく思う」と述べた。また、シャレツ首相は、スロベニア軍及び治安制度の改善は政府の優先課題の一つとした上で、「両氏とも優れた能力を有しており、また、女性が軍及び警察を率いるということは社会が成熟している証でもある」との見解を示し、両氏への期待を示した。

社会・文化・スポーツ

●UNICEF 教育公平性調査、スロベニア10位【2日】

ユニセフ実施の教育の公平性に関する調査で、スロベニアが10位にランクインした。この調査では、就

学前、小学校、中学校の3つの教育過程における子どもの教育の公平性が検討された。

就学前教育に含まれる4歳から5歳の就学率では、スロベニアで94%を記録し、28位。小・中学レベルでは、読解力の最も低い生徒と最も高い生徒の点数の差で格差を測るが、スロベニアは平均よりも高く、小学校(10歳)では17位、さらに中学校(15歳)では10位を記録。

ユニセフは、教育における公平性を確保するために、すべての子供たちに質の高い就学前教育へのアクセスを確保し、ジェンダー・社会経済学的格差を削減する取組が必要であると呼びかけた。

●スロベニア観光キャンペーンがワールドトラベルマーケット(WTM)において大賞を受賞【8日】

世界最大級の観光と旅行の見本市の1つであるロンドンのWorld Travel Market(WTM)で、スロベニアのスパ・ウェルネスリゾートを宣伝する観光キャンペーンが大賞を受賞した。「ヘルシーウォーターズ」というキャンペーンは、WTMのInternational Travel & Tourism AwardsのBest in Wellnessというカテゴリーで金賞を受賞。「ヘルシーウォーターズ」は単なるキャンペーンではなく、広告から開発、スロベニアの癒やしの温泉スパ&ウェルネスリゾートを振興する、幅広い活動をカバーしている。パク(Maja Pak)スロベニア観光庁長官は、「この受賞は、緑が豊富でアクティブかつ健康な国としてのスロベニアを更に広報する上で貴重なものである」と述べた。

数字で見るスロベニア人の食生活

18日、スロベニア統計局は、スロベニアの2017年の食糧消費データを発表しました。スロベニア人は平均的に121kgの穀物(米以外。日本人は米と小麦を合わせて90キロ程度)、114kgの野菜(日本人は93キロ程度)、93kgの肉(日本人は、食肉30キロで増加傾向、魚介26キロ程度:減少傾向)を食べたことを示しました。

また、平均的なスロベニア人は年間、72キロの果物(日本人は80キロ)、68キロのジャガイモ、12キロの卵、そして5キロの米を消費しました。さらに、平均して39リットルのワイン(日本人は3リットル)を飲み、1キロの蜂蜜を消費しました(日本人は数百グラム程度)。



(photo: Ministry of Agriculture, Forestry and Food)

2016年からデータに大きな変化は見られないものの、穀物、肉、ジャガイモ、蜂蜜、ワインの消費はわずかに低下。自給率は以下の表のとおり。高いものは肉と卵、低いものは、新鮮果実、野菜、蜂蜜、ジャガイモ等。穀物の自給率は61.3%、ワインの自給率は81.4%。なお、ワイン生産の約6割が白ワイン。

	生産量 (千トン)	消費量 (千トン)	自給率 (%)	一人当たり消費量 (kg)
穀物	547.0	866.5	63.1	121.1
肉	156.7	192.3	81.5	93.1
野菜	96.4	250.4	38.5	114.0
いも	77.1	154.6	49.9	68.0
果物	39.7	186.9	21.3	71.7

	生産量 (万リットル)	消費量 (万リットル)	自給率 (%)	一人当たり消費量 (リットル)
ワイン	6,635	8,152	81.4	38.8
内、 白ワイン	4,464	5,203	85.8	24.8

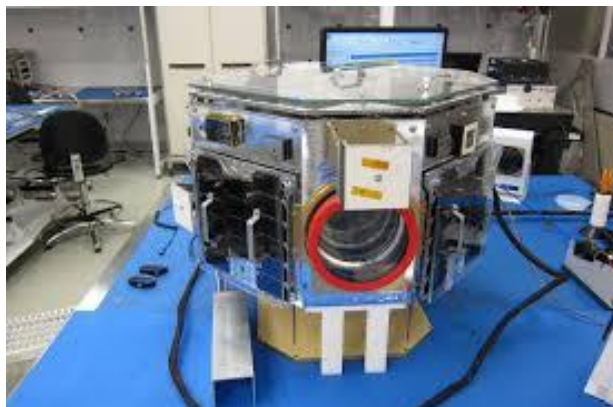
(出典:スロベニア統計局)

●スロベニア初の衛星打ち上げに予算【13日】

政府は来年に予定されているスロベニア初の衛星を打ち上げるための資金の一部として83万ユーロを計上した。衛星打ち上げの総予算は2300万ユーロ。

2つのスロベニア衛星のうち最初のものである「Nemo HD」と呼ばれる衛星は、スロベニアの宇宙科学技術センター「Vesolje-SI」によって開発された。同衛星は、欧州の地球観測システム「コペルニクス」の一部であるが、環境科学、林業、輸送等に関するスロベニア独自の画像データも収集する予定。

重量65キロの「Nemo HD」衛星は、600キロメートルの高度で地球を周回し、パナクロマチック(モノクロ)およびマルチスペクトル(人の目で見える可視光線の波長帯の電磁波だけでなく、紫外線や赤外線、遠赤外線などの人の目で見えない不可視光線の波長帯の電磁波も記録する)画像を生成。2019年前半に「Arianespace」(フランス)のロケットに搭載され打ち上げられる予定。



(photo: www.space.si)

●スロベニアのプロジェクトが Alpine Pluralism Award 受賞【21日】

スロベニアにおける異文化間のつながり及び西バルカン的女性たちの教育を促進するプロジェクトが、国際 Alpine Pluralism Award 2018 を受賞した。人道支援グループ「UP Jesenice」、リュブリャナのモダン・テキスタイル・アート協会及びデザイナーグループ OLOOP によるこのプロジェクトには、30名の移民の女性が参加し、テキスタイル製品を製造、販売している。なお、Alpine Pluralism Award 賞は、EU開発基金をもとに、アルプス地方における民族の多様性に資する活動を促進する「PlurAlps」イニシアティブの一環であり、民族多様性に資するプロジェクトに贈られる。

ワイン大国スロベニアの収穫祭！ St Martin's Day

11月11日は、スロベニア全国各地では、その年の収穫を祝い、その年の新しいワインを頂くお祭りとして親しまれる「St Martin's Day」(聖マルティヌスの日)です。

聖マルティヌスは、現在のハンガリー出身、元タローマ帝国の軍人でしたが、後にフランスのトゥール(Tours)で司教となったキリスト教の聖人で、ぶどうの栽培に熱心であり、果汁を発酵させる特殊な能力があったといわれていたことなどから、ワインの守護聖人でもあります。



(photo: I Feel Slovenia)

7人に1人がぶどう栽培やワイン醸造に関わっているとされるスロベニアでは、マスト(果醪)がワインになる日を祝う「St Martin's Day」は特別な思いで迎えられます。

また、この時期には、その年の新しいワインだけでなく、伝統的なスロベニア料理も用意されます。ローストダックに、赤キャベツの煮込み、「Mlinci」と呼ばれるパンケーキなどがついてきます。



(photo: Total Slovenia News, Neža Loštrek)

各家庭の味が異なるこの伝統料理は、収穫祭の時期を中心に町中のレストランでも楽しめます。ここで、2017年「世界一の女性シェフ」に選ばれたアナ・ロシュ監修によるレシピをご紹介します。

～ローストダック、プラム酢和え～ ビーツ・ボール かぼちゃのピューレ キンカンの甘露煮 添え

ローストダック: 1. 醤油250g, 砂糖75g, みかんジュース180g, ミカンの皮少々, スパイス(八角, クローブ, カルダモン, シナモン, ヒハツ等)を火にかけて煮詰める。
2. カモ肉を、皮を下にしてオーブン焼きした後、1のマリネに浸ける。
3. 2の器を水の張ったオーブントレー等に乗せて57°Cのオーブンで25分蒸す。

プラム酢: プラム酢1Lと砂糖500gを火にかけて、煮詰める。

ビーツ: 薄い赤と濃い赤の2色のビーツをそれぞれ100g洗って乾かした後、アルミホイルで包んで170°Cのオーブンで1時間焼く。焼きあがったら、皮を剥いて小さいボール形にくり抜く。サーブ前に、バターなどを入れたフライパンで温める。

かぼちゃのピューレ: かぼちゃをアルミホイルで包み、180°Cのオーブンで軟らかくなるまで焼く。ミキサーなどでペースト状にして、塩で味付けする。

キンカン: 100gを、3倍の量の水でゆでる。1:1の割合のシュガーシロップをかける。キンカンは4つに切る。

全てをワンプレートにのせて、出来上がり。色鮮やかなプレートになりそうですね。作られた方は、ぜひ



「マンスリー係」までお写真をお寄せください。次回号に掲載させていただきます！

最後に、12月は甘くてあったか〜いワイン(kuhano vino, mulled wine)の季節です！

(出典: <https://www.slovenia.info/en>)

気がつけばこの連載も今回で半年。これから何回かに渡り、過去に僕が実際に足を運んだルートやトレイルでの出来事・注意点などを紹介していこうと思います。まず初めに取り上げるのは2012年7月、僕がスロベニアに初めて訪れたときに足を運んだルートを紹介します。リュブリャナから北へ約20km、カムニクという街を拠点にレースに参加した時のこと。カムニクからさらに車で20～30分ほど北上するとややひっそりとケーブルカー乗り場があるのを見つけました。後から知ったのですが実はこれ、有名な観光地の1つ「ヴェリカプラニナ」。ケーブルカーに乗って一気に上まで登ってみるとそこに広がるのは高原地帯。見晴らしも抜群なのです。



手近に楽しめる絶景トレイルへ



オススメのポイントは放牧された牛たちと、アルプス地方特有の伝統的な放牧文化が残る集落。昔ながらの風景や家々を身近に眺めることができます。また、体力に応じてケーブルカー乗り場の近くだけを回るもよし、リフトなどもあるので時間と体力に余裕のある方は1日かけて高原地帯をぐるりと散策してみるのもオススメです。スロベニアの山は遠望がきく場所が多く、ここもその1つ。是非とも僕の味わった絶景をみなさんにも味わってほしいと思っています。ただし、登山道以外にも自由に歩き回ることができるので牛の糞にはくれぐれもご注意を（基本的にひらけているので迷子になる心配はまずないでしょう）。放牧時期は夏場なので、放牧された牛と触れたい場合は夏場に訪れてください。僕もたまたま訪れたのが7月だったこともあり、人馴れしているのか近づいても全く怖がらない牛たちとのふれあいを楽しみました。

また、それ以外の時期に訪れるとしたら僕が行ってみたいのはクリスマスです。毎年クリスマスイブには雪の中に佇む教会ではミサが行われるのだとか。ケーブルカーは通年営業とのことなので、この教会でミサに参加できたら素敵だろうなあ。もし、今年のクリスマスにスロベニアを訪れる予定がある方は是非足を運んでみてください。そして、是非その感想を聞かせてください。くれぐれも、防寒対策は万全にしてくださいね！

今回は旅の起点にもなるカムニクの街とレースについて紹介する予定です、次回もお楽しみに！

宮地藤雄（ミヤチフジオ）

2013～18 マウンテンランニング日本代表

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●スリに注意

リュブリャナ中心部等において、日本人観光客のスリ被害が発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、最近では、ブレッド湖など郊外の観光地でもスリや置き引き被害が増加しています。人混みの中では荷物を体の前で持つなどご注意ください。

【広報文化班からのお知らせ】

12月はクリスマス・ホリデーシーズンです。リュブリャナ市を含めスロベニア各地でイベントやウィンター・スポーツが楽しめます。ぜひ以下のスロベニア観光局・リュブリャナ市公式サイトをご確認ください。

●スロベニア各地の12月イベント: <https://www.slovenia.info/en/stories/holiday-december-in-slovenia>

●リュブリャナ市の12月イベント: <https://www.visitljubljana.com/en/visitors/december-in-ljubljana/>

●ウィンタースポーツ: <https://www.slovenia.info/en/things-to-do/active-holidays/skiing>